

国際専門家招へいプログラム 開催報告

食品安全の明日をともに考える国際シンポジウム

2016年3月18日、東京都港区の日本学術会議講堂(東京・港区)で「食品安全の明日をともに考える国際シンポジウム」を開催し、参加者は200名を超え、盛況となりました。

シンポジウムは、食品安全委員会の佐藤洋委員長による開会挨拶に続き、世界保健機関(WHO)食品安全・人畜共通感染症部の宮城島一明部長から、「食品に起因する疾病の負荷—WHOによる世界推計」と題する基調講演をいただきました。

続いて「食品安全の明日」をテーマとして、宮城島部長をはじめパネリスト7名によるパネルディスカッションが行われました。

その中で、京都大学の川村孝氏からは、「リスクとは“よくないこと”が起こるかもしれない

ことであり、発生前には確率でしか示せない」こと、国立医薬品食品衛生研究所の畝山智香子氏からは、「すべての情報にはバイアスがかかっている」こと、一般社団法人Food Communication Compass代表で科学ジャーナリストの松永和紀氏からは、「リスクコミュニケーションの目的は、それぞれの食生活を安全にすること」、日本生活協同組合連合会の鬼武一夫氏からは、「健康寿命の損失の一番の要因は不健康な食事である」ことなどと興味深い話題提供がなされ、参加者はみな熱心に聴き入っていました。

なお、当日の配布資料等は、以下のURLから入手できます。ぜひご覧ください。



WHO・宮城島一明部長



パネルディスカッションの様子

食品安全委員会 招へい 食品安全 資料 検索

<http://www.fsc.go.jp/fsciis/meetingMaterial/show/kai20160318ik1>

国際セミナー「牛海綿状脳症(BSE)と食の安全に関する科学」

2016年5月11日、日本学術会議講堂で、「牛海綿状脳症(BSE)と食の安全に関する科学」をテーマとした国際セミナーを開催しました。

食品安全委員会はBSEに関するリスク評価を行っています。本セミナーは、BSEの現状やこれまでに蓄積された科学的知見を通じ、BSEに関するリスクへの理解を深めることを目的としています。当日は、英国動植物衛生庁TSE部長のジェームス・ホープ氏から

「英国におけるBSEの起源、過去及び現在」、英国エジンバラ大学教授のロバート・ウィル氏から「変異型クロイツフェルト・ヤコブ病について」、東北大学客員教授の毛利資郎氏から「日本における牛海綿状脳症(BSE)研究」について、それぞれ最新の情報・知見を踏まえた講演を行っていただきました。

今回のセミナーには100名以上の方々に参加され、活発な質疑応答が行われました。



会場の様子

食品安全委員会 招へい BSE 資料 検索

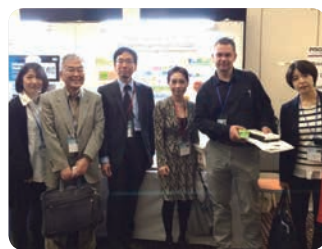
<http://www.fsc.go.jp/fsciis/meetingMaterial/show/kai20160511ik1>

PRION 2016 TOKYOでブース出展しました

2016年5月10日から4日間にわたり、学術総合センター(東京・千代田区)で開催された「PRION 2016 TOKYO」において、ブース展示を行いました。この催しは“プリオン病の克服をめざして”をテーマに開かれた世界規模の国際会議です。食品安全委員会はこれに合わせ、同センター内の一橋講堂でブース展示を行いました。ポスターの掲

示をはじめ、パンフレット・季刊誌を配布するなどし、委員会の活動や取組について広くPRしました。

開催期間中、出展のブースには、食品安全委員会と「協力に関する覚書」(MOC)を締結しているオーストラリア・ニュージーランド食品基準機関(FSANZ)の専門家が立ち寄られました。



食品安全委員会のブースの前で